

登録コード	F3A57020	開講年度	2026				
授業科目	人間工学					担当教員	吉田 宏昭
英文授業名	Human Factors (Ergonomics)					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・1時限		対象学生
講義室	繊維3 4 番講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 4 Fカリ・先進感性						
	【2023年度以降加付対象】モノづくりの基本である「工学的アプローチ」能力および自然科学、人文科学、社会科学を横断的に取り込める能力				豊かな感性と発想を基に、モノ作りや産業・社会システムの創出に取り組む構想力と創造的能力を会得できるようになる		
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	現在市販されている日常生活品や工業製品を例題として、これらの製品を我々が使いやすくするためにどのような人間工学的手法を用いればよいかについて学ぶ。 この授業では、人間工学の基礎だけでなく、行動分析学、行動心理、失敗学とヒューマンエラー、ユニバーサルデザイン、子どもの事故など、様々なトピックを取り上げ、製品を多角的に観察できるようにしてほしいという願いを込めて授業計画を立てている。さらに、Industry 4.0やIoTなど、ヒトとモノとの関係が劇的に変化しており、そういったトピックも雑談形式で伝えていく。						
(5)授業計画	授業は90分で実施する。 前半は、人間の行動原理などについて学び、人間の行動を取り上げる。 後半は、ヒューマンエラーなどの観点から、人間と製品との関係を学んでいく。 学期最後の授業において、最後の15分は授業アンケートに回答するための時間とする。 本授業では以下のトピックについて学んでいく。 (1) 人間工学の基礎（文化の違いなど） (2) 行動分析（行動観察） (3) 行動心理（行動経済学） (4) 失敗学 (5) ヒューマンエラー (6) ユニバーサルデザイン (7) 子どもの事故とリスクマネジメント 各トピックを2～3回で取り上げる。						
(6)成績評価の方法	毎回の小テスト（20％）と期末テスト（80％）によって評価する。						
(7)成績評価の基準	授業で取り扱う7つのトピックすべてについて、期末テストで内容を理解しているか問う。7つのトピック全てがある程度解けていると、授業の達成目標の水準にあるとする。 秀：授業の達成目標の水準から見て卓越している 優：授業の達成目標の水準よりかなり上にある 良：授業の達成目標の水準よりやや上にある 可：授業の達成目標の水準にある 不可（D）：授業の達成目標の水準よりやや下にある 不可（F）：授業の達成目標の水準にない						
(8)事前事後学習の内容	この授業は90 時間の学修を必要とする。従って、60 時間以上の時間外学習が必要となる。授業では身の回りにある製品や人間の行動パターンなどをトピックとして取り上げる。常日頃、よく観察する習慣を身につけて授業に対する理解を深めてほしい。						
(9)履修上の注意	授業では身の回りにある製品や現象を取り上げる。常日頃、自分の身の回りを観察する習慣を身につけて授業に参加してほしい。						
(10)質問、相談への対応	授業後に質問に対応する。						
(11)学生へのメッセージ	製品設計に必要なと思われる事柄を様々な観点から取り上げる。授業を通して、より広い視野から世の中を見つめることができるようになれば幸いである。						
(12)その他	特になし						
【教科書】	特になし						
【参考書】	指定しない						